SYLLABUS

2025

別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

専門分野

授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ 7 つの領域横断科目を設定しています。総計 53 科目（66 単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計 9 科目（11 単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計 5 科目（5 単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学 5 科目（5 単位）、老年看護学 3 科目（3 単位）、小児看護学 3 科目（3 単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学 3 科目（3 単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえのない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学 3 科目（3 単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は 3 科目（3 単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する 7 科目（7 単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計 12 科目（23 単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3 年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

地域・在宅看護論

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護概論	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	後期	時間	15時間
担当教員	①田部 ゆかり ②木畑 孝子	実務経験 関連資格	①訪問看護認定看護師・大分中村病院訪問看護ステーション　看護師 ②病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	看護の対象となる様々な人々や看護活動の場を想起し、人々が住み慣れた地域で満足した生活を送るための地域・在宅看護の役割について理解する。				
目標	1．地域・在宅看護の対象と看護活動の場を理解する。 2．わが国の保健・医療・福祉の動向を知り、地域・在宅看護に期待されることを理解する。 3．地域・在宅看護における看護師の役割を理解する。				DPへの対応 DP2・3 DP2・3・4 3：DP1・2・4・5

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	地域における人々の暮らしをイメージする。	テキスト DVD	1年次 地域･在宅看護論実習Ⅰにおけるまとめ資料を持参すること。
	授業予定	1．ガイダンス 2．日本各地に暮らす人々の生活について、想像したことを言葉にする。		
第2回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	1．日本の人口構造の変化･医療提供体制の変化を理解する。	テキスト 国民衛生の動向 PWP	基礎看護学で学んだ、人々の健康の概念について、学習内容を想起しておくこと。
	授業内容	1.人口構造の変化を説明する。 2．医療提供体制の変化を説明する。 3．地域・在宅看護に求められる視点を説明する。		
第3回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	地域・在宅看護の展望について理解する。	テキスト 国民衛生の動向 PWP	
	授業予定	1．地域医療構想の概要を説明する。 2．地域包括ケアシステムが推進される理由としくみについて説明する。		
第4回 〔講義〕 （田部）	到達目標	地域で療養する対象者の特徴について理解する。	テキスト 国民衛生の動向 PWP	
	授業予定	1．地域・在宅看護の対象とはどのような人々なのか、個人の観点から説明する。 ・対象者の特徴 ・対象者の生活		
第5回 〔講義〕 （田部）	到達目標	地域で療養する対象者の家族や介護者の状況について理解する。	テキスト 国民衛生の動向 PWP	家族看護論
	授業予定	1．地域･在宅看護の対象とはどのような人々なのか、家族･介護者の観点から説明する。 ・在宅で療養する対象者の家族や介護者の現状 ・家族システム・家族のアセスメント・家族への支援		
第6回 〔講義〕 （田部）	到達目標	地域における在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を理解する。	テキスト 国民衛生の動向 PWP	継続看護 専門職連携
	授業予定	1．地域・在宅における療養の場・看護の場について説明する。 ・在宅看護の提供方法 ・療養の場の移行　・　入院時・退院時の多職種連携		
第7回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	1．地域における人々の暮らしと、暮らしを支える人々についてイメージする。	テキスト DVD	
	授業予定	（グループワーク） 人々が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるために、看護職ができることについて考える。		
第8回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。		

		方法 ： 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）
	参考図書	国民衛生の動向
	その他	配布資料　パワーポイント
授業以外の学習方法		日常の生活の中で、日ごろから学校周辺の地域の人々や、住んでいる地域の人々とたくさんのコミュニケーションをとりましょう。これらの活動を積極的に行うことや、地域・在宅看護概論の履修をとおして、2 年次に学習する地域・在宅看護の方法Ⅰの履修に向けての課題を具体的にイメージすることができます。
履修上の留意点		本科目は、地域・在宅看護論の導入となる科目です。2 年次における地域・在宅看護の方法Ⅰ、3 年次における地域・在宅看護の方法Ⅱ・Ⅲ、そして看護学校最後の実習となる地域・在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護） につなぐものとなります。さらに、3 年次後期に開講される地域・在宅看護の方法Ⅳでは、これらの知識を活用して事例を展開します。

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ	単位	1単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	山本 幸子	実務経験 関連資格	主任介護支援専門員　地域包括支援センター　管理者 認知症ケア専門士		
目的	療養者とその家族が住み慣れた地域で望む暮らしを実現するための、地域・在宅看護の展開に必要な知識を身につける。				

目標	DPへの対応
1．地域で暮らす人々と、人々の生活を支える周囲の人や関係機関を幅広く理解する。	DP1
2．療養者とその家族が望む暮らしを実現するための法律・制度、社会資源について理解する。	DP2・3
3．訪問看護サービスの概要を理解する。	DP4・5
4．地域で暮らす人々を支えるための多職種連携について理解する。	DP4・5

授業回数〔方法〕	内容		使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	地域に暮らす様々な人々と、その暮らしを守る人々や関係機関についてイメージする。(1)	テキスト① 第4章 発表用の模造紙	地域・在宅看護論実習Ⅰ・地域在宅看護概論の学びを想起する。
	授業予定	1．ガイダンス 2．地域・在宅看護の対象を幅広くとらえ説明する。 （演習）地域に暮らす人々と人々を支えている人・関係機関のつながりをマップに整理する。		
第2回〔講義〕	到達目標	地域に暮らす様々な人々と、その暮らしを守る人々や関係機関についてイメージする。(2)	テキスト① 第4章 発表用の模造紙	
	授業内容	1．地域・在宅看護の対象を幅広くとらえ説明する。 （演習） 地域に暮らす人々と人々を支えている人・関係機関のつながりをマップに整理する。		
第3回〔講義〕	到達目標	看護が提供される多様な場と役割について理解する。(1)	テキスト① 第5章	
	授業予定	1.看護が提供される多様な場と役割について説明する。 （演習）看護が提供される様々な場所とその機能・看護師の役割について調べまとめる。		
第4回〔講義〕	到達目標	看護が提供される多様な場と役割について理解する。(2)	テキスト① 第5章 PWP	第3回の演習のまとめになります。
	授業予定	1.看護が提供される多様な場と役割について説明する。 1）さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2）おもな地域・在宅看護実践の場 3）地域・在宅看護における多職種連携		
第5回〔講義〕	到達目標	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する。(1)	テキスト① 第6章 PWP	関係法規および社会福祉と関連の深い目標です。
	授業予定	1．介護保険・医療保険制度について説明する。 2．地域・在宅看護にかかわる医療提供体制について説明する。		
第6回〔講義〕	到達目標	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する。(2)	テキスト① 第6章 PWP	
	授業予定	3．訪問看護の制度について説明する。		
第7回〔講義〕	到達目標	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する。(3)	テキスト① 第6章 PWP	5．6．7については、社会福祉でより詳しく学習します。第5．6．7回は、授業毎の目標への到達度により前後する可能
	授業予定	4．地域保健にかかわる法制度について説明する。 5．高齢者に関する法制度について説明する。 6．障害者・難病に関する法制度について説明する。 7．公費負担医療に関する法制度について説明する。 8．権利保障に関連する制度		

				性もあります。
第 8 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働について理解する。(1)	テキスト② 第 5 章 PWP	
	授業予定	1．地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働について説明する。 2．医療・福祉・介護関係者との連携・協働について説明する。 3．医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働につちえ説明する。		
第 9 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働について理解する。(2)	テキスト② 第 5 章 PWP	関係法規 社会福祉
	授業予定	4．地域共生社会を実現するために看護師ができることは何かともに考える。		
第 10 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	地域・在宅看護マネジメントについて理解する。(1)	テキスト② 第 6 章 PWP	
	授業予定	1．地域・在宅看護マネジメントとは何か説明する。 2．多様な場における地域・在宅看護マネジメントについて説明する。 ＊事例の紹介		
第 11 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	地域・在宅看護マネジメントについて理解する。(2)	テキスト② 第 6 章 PWP	
	授業予定	2．多様な場における地域・在宅看護マネジメントについて説明する。 ＊事例の紹介		
第 12 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	地域・在宅看護活動の創造と今後の展望について考える。	テキスト② 第 7 章 PWP	
	授業予定	1．地域・在宅看護活動の創造について説明する。 2．暮らしの保健室の例について説明する。 3．さまざまな地域・在宅看護活動の展開例について説明する。 4．地域・在宅看護活動の創造のための考え方について説明する。		
第 13 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	1．事例をとおして地域・在宅看護の展開について考える。	テキスト①②	第 1 回目からの授業をとおして理解したことを想起しておきましょう。
	授業予定	1．事例における看護の展開		
第 14 回 **〔 講 義 〕**	到達目標	1．事例をとおして地域・在宅看護の展開について考える。 2．まとめ	テキスト①②	
	授業予定	1．事例における看護の展開 2．まとめ		
第 15 回		まとめ　終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法　：　終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	**テキスト**	①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 第 6 版：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第 6 版：医学書院 e テキスト		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料　パワーポイント		
授業以外の学習方法		グループワークを予定しています。時間外を活用して、各グループの連絡・スケジュール調整・学習準備を整えましょう。		
履修上の留意点		1 年次の地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護論概論の学習内容を復習して講義に臨みましょう。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ	単位	1単位
対象学年	3学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	田上 香里	実務経験関連資格	訪問看護ステーションたけい　看護師長		
目的	基礎看護学や専門領域別実習で学んだ知識と、習得した原理原則に基づいた技術を基盤に、地域在宅で生活する療養者とその家族に提供するための工夫を凝らした看護技術を学ぶ。				
目標	1．在宅で生活する療養者と家族に提供する看護技術の特徴ついて理解する。 2．在宅で生活する療養者と家族のための日常生活援助の応用と工夫について理解する。				DPへの対応 DP1 DP2・3

授業回数〔方法〕	内容		使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	在宅で生活する療養者とその家族とのコミュニケーションの方法を理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．ガイダンス 2．在宅看護を支えるコミュニケーションの特徴を説明する。 3．訪問看護の際の基本的姿勢（マナー）・心構えについて学ぶ。		
第2回〔講義〕	到達目標	療養者の呼吸を楽にする援助について理解する。	テキスト PWP	
	授業内容	1．在宅における呼吸に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・呼吸管理・呼吸に関するアセスメント・呼吸への援助		
第3回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が望む食生活、満足できる食生活について理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅における食生活・嚥下に関する看護技術を習得する。（講義・演習） ・在宅における食生活の特徴 ・食生活・嚥下に関するアセスメントと援助		
第4回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が安心して受けられる排泄の援助について理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅における排泄に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅での排泄の特徴とアセスメント ・尿失禁・便秘・便失禁の予防と工夫		
第5回〔講義〕	到達目標	在宅における家屋構造をイメージした移動・移乗の援助について理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅における移動・移乗に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅における移動・移乗の特徴とアセスメント ・移動・移乗の援助		
第6回〔講義〕	到達目標	在宅における清潔援助の方法と物品について理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅における清潔に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅における清潔のアセスメントと援助の工夫		
第7回〔講義〕	到達目標	認知機能の低下がみられる療養者と家族の援助について理解する。	テキスト PWP	
	授業予定	1．認知機能の低下がみられる療養者の在宅における援助を説明する。 ・認知機能とアセスメント ・認知機能に障害がある療養者への在宅看護		
第8回	到達目標	在宅で迎える最期を支える看護について理解する。	テキスト	

〔講義〕	授業予定	1．在宅で人生の最期を迎える療養者と家族の看護について説明する。 ・在宅における終末期看護の特徴と終末期看護の展開	PWP	
第 9 回 〔講義〕	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔1〕	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する。 ・褥瘡の予防とケア・尿道留置カテーテル ・ストーマ（人工肛門・人工膀胱）		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔2〕	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する。 ・経管栄養法・在宅中心静脈栄養法（HPN）		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔3〕	テキスト PWP	
	授業予定	1．在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する ・非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） ・在宅酸素療法（HOT） ・在宅人工呼吸療法（HMV）		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔1〕	テキスト 参考図書	
	授業予定	1．事例を用いた看護技術の実践 （演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔2〕	テキスト 参考図書	第 14 回は 発表となります。各グループで当日までに準備を整えておきましょう。
	授業予定	1．事例を用いた看護技術の実践 （演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔3〕	テキスト 参考図書	
	授業予定	1．事例を用いた看護技術の実践 （演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施（発表）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 ： 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 ： 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第 6 版：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		科目時間外を活用して、看護技術の練習をしましょう。		
履修上の留意点		1 年次に学習した基本看護技術の知識・技術は習得している前提で講義をすすめます。地域・在宅看護の看護技術は、基礎看護の応用になりますから、既習知識・技術の想起・復習をして講義に臨みましょう。講義の後半では、事例を用いた看護技術の演習をしていきます。科目時間外を活用して、十分な練習をしたうえで発表に臨みましょう。3 年次の実習は、在宅における援助提供の本番となります。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ	単位	1単位
対象学年	3学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	①阿部 美樹 ②原 光明 ③工藤 剛 ④木畑 孝子	実務経験 関連資格	①大分医師会アルメイダ訪問看護ステーション　看護師・訪問看護認定看護師 ②訪問看護ステーションオリナス　管理者・診療看護師（NP） ②やまなみ苑　看護師・看護師長 ③病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	在宅で生活する療養者と家族の望む暮らしを支えるための訪問看護の展開方法を理解する。				
目標	1．在宅看護の介入時期と継続した看護の実際を理解する。 2．様々な事例の訪問看護の実際について理解する。 3．在宅看護における看護過程の展開方法を理解する。				DPへの対応 DP1・2・3 DP1・2・3 DP1

授業回数〔方法〕	内容		使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕（原）	到達目標	療養者と家族のアセスメントの要点を理解する。		
	授業内容	1．地域で生活する療養者と家族のアセスメントについて説明する〔1〕 ・フィジカルアセスメント ・身体・心理的側面のアセスメント ・家族のアセスメント・生活のアセスメント　ほか		
第2回〔講義〕（原）	到達目標	療養者と家族のアセスメントについて理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	1．地域で生活する療養者と家族のアセスメントについて説明する〔2〕 ・フィジカルアセスメント ・身体・心理的側面のアセスメント ・家族のアセスメント・生活のアセスメント　ほか		
第3回〔講義〕（阿部）	到達目標	療養者の生活と継続した看護について理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	1．訪問看護の介入の時期と看護の継続について説明する〔1〕 ・治療の場から在宅への移行期 ・在宅療養の安定期・リハビリテーション期・急性増悪期		
第4回〔講義〕（阿部）	到達目標	療養者の生活と継続した看護について理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	1．訪問看護の介入の時期と看護の継続について説明する〔2〕 ・終末期・グリーフケア ・継続看護の意義と方法		
第5回〔講義〕（阿部）	到達目標	事例をとおして訪問看護の実際を理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	ALSの療養者と家族の看護について説明する。		
第6回〔講義〕（阿部）	到達目標	事例をとおして訪問看護の実際を理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	小児期にある療養者と家族の看護について説明する。		
第7回〔講義〕（工藤）	到達目標	事例をとおして訪問看護の実際を理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	統合失調症の療養者と家族の看護について説明する。		
第8回〔講義〕（阿部）	到達目標	事例をとおして訪問看護の実際を理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	認知症のある療養者と家族の看護について説明する。		
第9回〔講義〕（阿部）	到達目標	事例をとおして訪問看護の実際を理解する。	テキスト 参考図書 PWP	
	授業予定	終末期にある療養者と家族の看護について説明する。		
第10回	到達目標	療養者と家族のアセスメントの要点を理解する。	テキスト	

〔講義〕 （木畑）	授業予定	1．地域で生活する療養者と家族のアセスメントの枠組みを説明する。	参考図書 PWP	
第 11 回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト 参考図書 DVD PWP	
	授業予定	課題事例看護の展開方法を説明する。		
第 12 回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト 参考図書 DVD PWP	
	授業予定	課題事例の展開		
第 13 回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト 参考図書 DVD PWP	
	授業予定	在宅看護過程の展開方法を説明する。		
第 14 回 〔講義〕 （木畑）	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト 参考図書 DVD PWP	
	授業予定	在宅看護過程の展開方法を説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 ： 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 ： 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第 6 版：医学書院 e テキスト		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法				
履修上の留意点		3 年次に行われる地域・在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護）では、実際の療養者のご自宅に訪問します。そこで行う看護は、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度の応用と、各領域看護学・実習の統合です。既習の学習を想起しながら学習に臨み、地域・在宅看護論実習Ⅱをイメージしながら履修しましょう。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ	単位	1単位
対象学年	3学年	学期	後期	時間	30時間
担当教員	塩田 和泉	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校　専任教員		
目的	事例を用いて訪問看護導入から実施までの具体的な看護を展開し、地域・在宅看護論における看護の可能性を創造する。				
目標	1．療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。 2．地域・在宅における看護の可能性について創造する。				DPへの対応 DP1・2・3・4・5 DP5・6

授業回数〔方法〕		内容	使用教材	授業に関する準備学習
第1回〔講義〕	到達目標	在宅看護の展開の要点を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	地域・在宅看護概論、地域・在宅看護の方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識、在宅看護論実習の学びを活用します。想起・復習しておきましょう。
	授業予定	1．ガイダンス 2．在宅看護の展開方法を説明する。 ・地域・在宅看護過程の特徴・情報収集とアセスメント ・目標の設定と計画・実施と評価		
第2回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業内容	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。(演習：協同学習)		
第3回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。(演習：協同学習)		
第4回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。(演習：協同学習)		
第5回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)		
第6回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	第7回は、協同学習の成果を発表となります。科目時間外を活用して、発表できるよう整えておきましょう。
	授業予定	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。(演習：協同学習) 発表		
第7回〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。	テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1．事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。(演習：協同学習)		
第8回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準　：　履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法　： ・協同学習によるグループの看護過程　80%　レポート　20%　(合計100%)		

		（60%未満は再試験とする）
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第6版：医学書院eテキスト
	参考図書	
	その他	配布資料 パワーポイント
授業以外の学習方法		
履修上の留意点		地域・在宅看護の方法Ⅳは、協同学習で展開した看護過程の評価とレポートでの評価となります。グループで協力して頑張りましょう。